

IV 研究開発実施の 効果と評価

IV 研究開発実施の効果と評価

目標（１）「山北高等学校を中心に、行政・町民・企業が一体となる」ことについて

① 進捗状況

- 山北町及び県（政策局、県西地域県政総合センター等）、企業等との連携・協働により町及び町民、企業の参加が得られる体制は整った。

② 成果

- 行政・町民・企業との連携を通じた様々な体験活動後のアンケート結果から、生徒の地域への関心が高まったことが分かった。

③ 評価

- 山北高等学校と行政・町民・企業の連携体制が整ったので、今後は「一体となる」ことについて目標を明らかにし、それに向けて推進する必要がある。

目標（２）「『未病』、『防災』の二つの視点でPBLを活用した『個人の成長』を求めるカリキュラムの開発研究」について

① 進捗状況

- ２年時からの学校設定科目「未病」、「地域防災」等の学習に向けて、今年度は基礎知識の習得と町・企業と連携したPBLを「未来探究」で展開。

② 成果

- 生徒アンケート及び研究テーマから「未病」、「防災」を中心とした学習活動を通じて生徒の意識や発表内容に前向きな変化が見られる。
 - ・ 未病についてのPBLでは、発表事例として、「三食美人」（お茶ラベル）、「ME - BYO 絵本」など身近なテーマにより未病を自分事として捉えた発表が数多く見られた。

③ 評価

- 町や企業、地域住民による授業参加及び異世代との対話
 - ・ 今年度は、地域の意見等反映できる場が少なかった。来年度に向けて異世代との対話を組み込んだ授業展開の計画が必要である。

目標（３）「Uターンを含めた地域で活躍し、地域を創生する人材の育成」について

① 進捗状況

- 町の魅力や歴史について、町や協議会と協力して授業を展開した。
 - ・ フィールドワーク等を通じて、自分と地域との関わりを考えられるようになった。
 - ・ 山北町からの、町勢要覧の提供は、町の現状や課題について学習し、実際に放棄竹林や放棄森林などの課題に触れることで、マイプロジェクトへの一助となった。

② 成果

- 山北町への貢献度の向上について
 - ・ 学校で実施したアンケート結果において、「山北町に貢献することを希望する生徒」（４月 49.7%→２月 64.7%）等の３項目において増加した。

③ 評価

- 山北町へのUターンを含めた地域で活躍
 - ・ 今後は地域への愛着をさらに育み、生徒が実際にキャリアを考えるうえで、山北町で「就職したい」「起業したい」と思える様な、より具体的な成果を出すことが課題。
 - ・ 進路学習との連携により、地元企業への訪問や林業、農業、酪農等の地域ならではの職業体験等の実施により、地元地域で働きたいと思える進路学習の取組が必要。